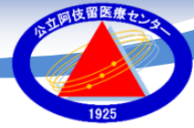


公立阿伎留医療センター

No.100 令和2年7月

地域医療連携センターニュース



公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

発行 地域医療連携センター

電話 042-558-0321(代表)

FAX 042-550-5190(直通)

ご挨拶と今後の診療について

産婦人科長 相田 賢司

(日本産婦人科学会専門医・指導医)

(婦人科腫瘍専門医)

(女性ヘルスケア専門医)

令和2年4月より公立阿伎留医療センター産婦人科科長として着任した相田賢司(すぎたけんじ)と申します。専門領域は腫瘍と女性ヘルス(特に骨盤臓器脱)です。

日本大学(以後「日大」)医学部卒業後、産婦人科学教室(佐藤和雄教授)に入局し、早川智先生(現日大微生物学分野教授)の指導で大学院を卒業後、日大板橋病院産婦人科部門(山本樹生教授)で婦人科中心の教育・診療に従事し外来医長、教育医長、そして最後の5年間には医局長をしておりました。その時に婦人科腫瘍専門医、女性ヘルス専門医の資格を取得しました。因みに、婦人科科長として指導力を発揮していたのが現在の公立阿伎留医療センター産婦人科部長の高田眞一先生(当時は研究所准教授)でした。学会活動では、平成27年から2年間日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会の『抗NMDA受容体脳炎の全国調査に関する小委員会』の委員をやらせていただき、現在は日本女性医学学会の代議員をしております。

抗NMDA受容体脳炎とは卵巣奇形種に合併する劇症型脳炎で日大神経内科学分野の亀井聡教授が日本初の提唱者であり、そのご縁で婦人科医としては日本で一番多くの症例に対応させていただきました。

2017年4月より日大産婦人科の関連施設として立川の独立行政法人国立病院機構災害医療センター婦人科のゼロからの立ち上げの責任者として赴任し、腹腔鏡下・子宮鏡下手術と骨盤臓器脱(子宮脱や膀胱瘤など)の専門外来を目玉として3年間かけて何とか軌道に乗せることができました。

2018年から公立阿伎留医療センターが新たに日大産婦人科の関連施設となり高田眞一先生が部長として派遣されました。そのご縁で2019年4月から週1回手術の支援で勤務するようになりました。公立阿伎留医療センターの雰囲気がとても私に合っており異動を考えるようになり、川名敬教授のご配慮で災害医療センターからの異動が認められ、令和2年4月から常勤医として勤務するようになりました。

日大医学部と看護専門学校の非常勤講師は継続し、定期的に学生への講義のため医学部に行っております。

公立阿伎留医療センターでは、現在週2回(月、火)の外来と、手術を担当しております。手術にはやりがいを感じており、悪性腫瘍手術も積極的に対応し、良性腫瘍や骨盤臓器脱に対しては最近の流れから、可能な限り腹腔鏡下・子宮鏡下手術を施行するように心掛けております。

特に、最近力を入れている骨盤臓器脱(子宮脱、膀胱瘤など)の手術ですが、以前から行われている腔式の脱根治術や腔閉鎖術も当然行いますが、腹腔鏡下 Shull 法や、最新式でかつ再発率も最も低いと言われている腹腔鏡下仙骨腔固定術(CSC)を積極的に導入しており、前施設では約 50 症例に LSC を施行しました。

LSC は子宮温存できる術式もあり、まだ子宮を摘出したくないが症状に悩む分娩後の患者さんや 30 ~ 40 歳代の患者様にも対応することができます。

余程の内科的疾患や精神疾患の合併症がない限りは紹介された患者さんは積極的に手術対応致します。生殖医療の診療は個人的には致しませんが、産科診療は普通に致します。

まとまりのない文章となり恐縮ですが、微力ながら西多摩地区に貢献したく思っておりますが、先生方のご紹介がなければ空回りとなってしまいます。

高齢化が進み内科や外科や泌尿器科の先生方の患者さんの中に骨盤臓器脱でお悩みの方は相当数いるはずです。少しでも気になった患者さんがおられましたら、ご遠慮なくご紹介をしていただければ幸いです。今後ともご指導・ご鞭撻を宜しくお願いいたします。